



Sustainability Report

サステナビリティレポート
ダイジェスト版





私たちカルソニックカンセイグループは、黎明期より一貫して、日本の、ひいては世界のモータリゼーションを支えてきました。
これからも、社会とともに歩み、社会に貢献する存在として、挑戦を続けます。

Sustainability Report 2017

サステナビリティレポート ダイジェスト版

01 2016年度の主な成果

02-03 沿革／主要指標

04-05 変化をチャンスへ

トップコミットメント

06 官民の連携で埼玉県を押し上げるイノベーションを生む

ステークホルダーエンゲージメント
埼玉県知事 上田 清司氏 × カルソニックカンセイ株式会社 代表取締役社長 森谷 弘史

07-17 2016 in Review: Our Initiatives Across the Globe

08-09 グローバルな環境経営を支えるイノベーションとマネジメント

10-11 [中国リージョン] 労働業務環境の改善向上と地球環境保全を目指して

12-13 [欧州リージョン] 現代奴隷法を機に、さらなる基本的人権の尊重へ

14-15 [米州リージョン] 誇りを持って地域貢献や意識改革に取り組む

16-17 [アジアリージョン] ダイバーシティの促進と環境活動で地域社会へ貢献

18-29 2016 in Review: Highlights

20 [組織統治] 責任のある経営基盤の構築

21 [人権] 人権を尊重する企業風土の醸成

22-23 [労働慣行] 個と多様性を重視する組織づくり

24-25 [環境] 環境への取り組み

26 [公正な事業慣行] 倫理的な行動基準を守る

27 [消費者課題] 高品質で安全な製品の提供

28-29 [コミュニティ参画・開発] 地域社会への貢献

30 第三者意見／第三者意見を受けて

31 グローバルネットワーク

32 会社概要／編集方針



シンガポールに拠点を置く、ニュース専門テレビ局、Channel NewsAsiaによる、2016年度の「アジアで最も持続可能な100社」ランキングでアジア第9位(日本第1位)に選出されました。

2016

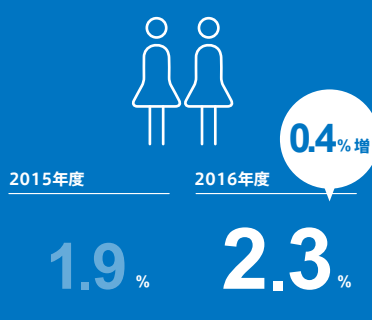
ACHIEVEMENTS

2016年度の主な成果

グリーン調達 [新規口座開設時同意書回収率]
2016年度目標 100%



女性管理職比率 *



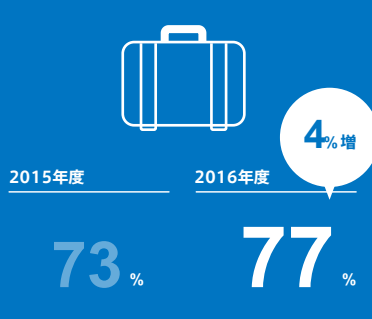
環境配慮型製品創出数
2011~2016年度目標 10製品



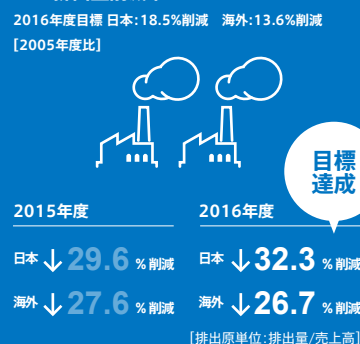
行動規範教育・誓約率
2016年度目標 100%



有給休暇取得率 *
2016年度目標 16日*



CO₂ 排出量削減率 **



お客さま満足度
2016年度目標 3.38 [最大5ポイント]



カルソニックカンセイグループのKPI [重要業績評価指標]

カルソニックカンセイグループは、2015年度、グローバルの社会課題を抽出し、「自社への影響」「ステークホルダーへの影響」「発生頻度」「リスク回避への対応度合い」を評価し、ISO26000の中核主題に即した、重要課題を特定しました。また、それぞれの重要課題ごとにKPIを設定し、目標達成に向けてPDCAで活動を推進しています。

*当該年度の有給付与日数は入社後の年数によるため(入社初年度は16日)、社員一人当たりの年間有給取得日数にて年度目標を設定
バウンダリー: ★=カルソニックカンセイ単体、★★=日本:カルソニックカンセイおよび国内グループ会社、海外:海外グループ会社、その他はグローバル

① カルソニック ② カンセイ ③ カルソニックカンセイ

1938 ①

「日本ラジエーター製造株式会社」創立。

1956 ②

「関東精機株式会社」創立。

1960 ③

埼玉県大宮市(現さいたま市)に新本社、工場を建設、移転。

1988 ①

「カルソニック株式会社」に社名変更。

1990 ③

東京証券取引所第1部に上場。

1991 ②

「株式会社カンセイ」に社名変更。

2017 ③

KKRが設立したCKホールディングス(株)の完全子会社となる。

Innovation for Better Society

2018

創立80周年、未来に向けて社会とともに

2018年、創立80周年を迎える当社は、長きにわたる歴史の中で最も大きな変化の時を迎えています。私たちはこの変化を、当社が持続的成長を5年、10年、20年と進めていくための機会と位置づけています。

そして80年後、100年後、さらにその先を見据え成長の道を切り拓いていくために、持続可能な社会の実現に貢献しつつ自らの企業価値も持続的に向上させ、さらなる「CKらしさ」を追求していきます。

1973 Ⓒ

東京証券取引所第1部に上場。

1976 Ⓒ

初の海外拠点として米国カリフォルニア州にカルソニック社設立。

1984 Ⓚ

初の海外拠点として米国テネシー州にカントス社設立。

2000 Ⓒ

両社の合併により「カルソニックカンセイ株式会社」設立。

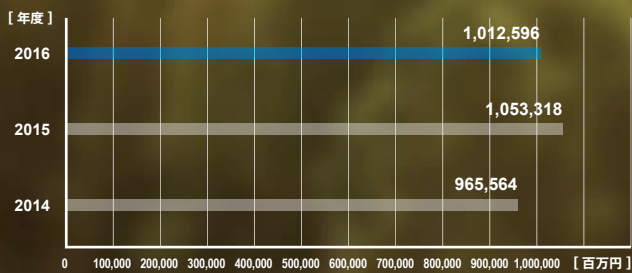
2005 Ⓒ

日産自動車(株)に対する第三者割当増資を実施、同社の連結子会社となる。

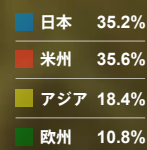
2008 Ⓒ

埼玉県さいたま市に研究開発センター・本社移転。

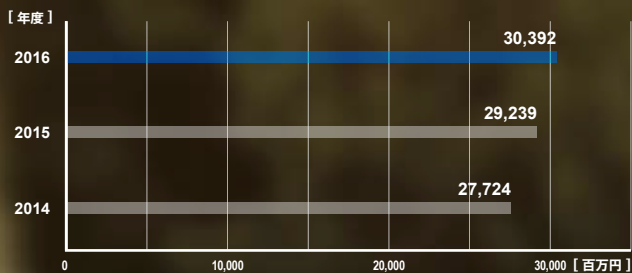
連結売上高



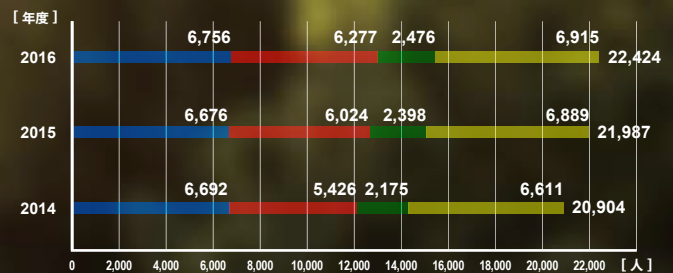
連結地域別売上比率 [2016年度]



連結研究開発費



連結地域別従業員





TOP COMMITMENT

変化をチャンスへ

事業を通じて持続的に世界の社会課題解決に貢献できるグレートカンパニーを目指します

カルソニックカンセイ株式会社 代表取締役社長
森谷 弘史

グレートカンパニーとして成長するためにCSRを促進

カルソニックカンセイグループは世界のモータリゼーションを支える「モノづくり」の会社です。業界をリードする環境配慮型製品の開発や、継続的なCSR活動の取り組みをより一層進め、世界中の自動車メーカーにとって重要なパートナーとなるグローバルサプライヤーとして、持続可能な社会の実現に貢献できる会社を目指しています。

2017年3月末には6カ年で進めた中期経営計画『CK GX4 T10(シーケー ジーバ イフォーティーン)』を終了し、新たなステージに挑戦する時機を迎えました。『CK GX4 T10』は、「4つのG」をキーワードとして活動しました。

1つめのGである「グリーン (Green)」で目標とした「世界をリードする環境配慮型製品を10種創出すること」については、無事に達成することができました。

2つめのG、「グロウス (成長) (Growth)」では、「売上高グローバルトップ10を実現する(1兆円以上)こと」を掲げ、2015年以降、売上高1兆円を達成しています。

3つめのGである「グローバル (Global)」は、No.1、オンリーワン技術をもって、競争力のあるモノづくりをグローバルに実施するためのさまざまな施策を打ってきました。

世界15カ国、79拠点となった生産体制、世界8カ国、14拠点の開発体制はその大きな成果であり、これにより、売上・収益の拡大につながっていると考えています。さらに、業務プロセスをより効率化するために、グローバルで標準化された生産プロセス、開発プロセスを構築しました。

Green、Growth、Globalを結実させることができましたが、それだけでは、4つめのGである「グレートカンパニー (Great Company)」にまで到達したとはいえません。「Great Company」へと成長していくには、社会に貢献し、存在価値をより高める必要があります。そこで、2015年を「CSR元年」と掲げ、CSR活動を体系化し、全社的な活動へと昇華させ取り組んできました。

その成果として、サステナビリティに関する外部指標を大幅に向上させることができました。

独立したモノづくり企業としての展望 ～「しなやかで強い」サステナブル経営～

2017年3月末にカルソニックカンセイグループは、日産自動車グループの一員から、独立した自動車部品のモノづくり企業へと変わりました。新しいパートナーとなったKKR (Kohlberg Kravis Roberts) のさまざまな業界の豊富な知見を活かして、新生カルソニックカンセイグループを築いています。

その中で、カルソニックカンセイグループは、財務・非財務を一体化させ、「しなやかで強い」サステナブル経営をさらに進化させます。

今年度スタートさせる新しい中期経営計画のキーワードは、「持続的成長」と「企業価値の向上」です。「持続的成長」とは、常に財務指標を向上させていくこと、すなわち、2013年から続く最高益の更新を継続させることです。「企業価値の向上」については、2つで進めます。1つめは、お客さまである自動車メーカーにとって、欠くことのできない重要なサプライヤーとなっていくことです。2つめは、非財務のCSR面でも存在価値を向上し続けていくことです。2021年にはカルソニックカンセイグループの目指す「Great Company」に到達できるようなマイルストーンを設定します。

その実現のためには、従業員一人ひとりがいかに「CSRマインド」を持って活動できるかが鍵となります。社会からの要請を受け止めるだけでなく、個人として、社会にどう貢献していくかを考えられるマインドの醸成が必要なのです。

また、従業員はCSR活動の重要なステークホルダーです。社外に向けた貢献だけでなく、従業員にとって働きがいがあり、かつ、働きやすい職場づくりも引き続き推進します。

変化のスピードの速いグローバル社会の要請にタイムリーに対応

グローバル社会の変化はより加速しています。新たな気候変動の国際的枠組である「パリ協定」のスピード発効は、それを象徴する動きだといえるでしょう。カルソニックカンセイグループは、環境に深い関わりを持つ自動車産業の一員として、積極的に環境問題の解決に取り組んでいます。こうした国際的な動きにも敏感に反応し、一層注力して取り組みを進めます。

また、2016年度のCSR活動の大きな成果として、世界的に関心が高まっている「人権」への対応が挙げられます。カルソニックカンセイグループでは、2016年4月に「人権方針」を制定し、国際規範の尊重、基本的な人権の保護に努めることを表明、従業員だけでなくサプライチェーンも含めた人権尊重に取り組んでいます。2016年9月には、イギリスで施行された「現代奴隷法 (Modern Slavery Act 2015)」にのっとり、声明を発表しました。

そして、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) に対しても、事業を通じて積極的に取り組むとともに、従業員へも参加を奨励し、良き企業市民として社会課題の解決に貢献していきます。

社会的価値の創造とダイバーシティへの取り組み

2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されますが、その基本コンセプトのひとつに「多様性と調和」が掲げられています。ホスト国である日本にグローバル本社を置く企業グループとして、ダイバーシティについてもさらに積極的に取り組みます。

具体的には、多様性に配慮し、一人ひとりの個性を活かす「人財」育成を徹底し、従業員と「ともに成長する」経営を強化していきます。ジェンダー、年齢、出身、文化、信仰、考え方など、幅広いバックグラウンドを持つメンバーが揃う組織からは多様なアイデアが湧き上がり、そこからイノベーションが生まれます。つまり、社会のための新しい価値創造へと挑戦を続けるカルソニックカンセイグループにとって、多様性のある組織を醸成することは不可欠なのです。

100年、その先まで持続的に発展できる企業グループへ

カルソニックカンセイグループは2018年、創立80周年を迎えます。今後、100年、その先まで、グループが持続的に発展するためには、CSR活動の推進を欠かすことはできません。

ステークホルダーの皆さまには、この大きな変化の中でカルソニックカンセイグループが何を進めていくのかを期待して見守っていただきたいと思えます。大きな変化をチャンスとし、社内外の活動を積み重ね、「Great Company」実現に向け一歩ずつ近づいていきたいと考えています。

カルソニックカンセイグループは、従業員一人ひとりが、ワンチームとして変化を楽しみ、これまで以上に自信と誇りを持って日々の業務にまい進していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



持続可能な開発目標: Sustainable Development Goals: SDGs

STAKEHOLDER ENGAGEMENT

官民の連携で埼玉県を押し上げる イノベーションを生む

官民連携を推進してきた埼玉県の上田清司知事とカルソニックカンセイ株式会社 代表取締役社長 森谷弘史が、埼玉県で事業を行う意義や官民で作るイノベーション構想について意見交換を行いました。

埼玉県知事
上田 清司氏

カルソニックカンセイ株式会社 代表取締役社長
森谷 弘史



森谷 カルソニックカンセイは、大株主が変わり、イノベーションを生み出す独立系自動車部品のモノづくり企業として舵を切っていくことになりました。また、来年2018年で創業80周年、埼玉県に本社を移転して10年を迎えます。これを「第二の創業」として、改めて社会のために何をしていくかを考えていきたいと思っています。

上田知事(以下、知事) 御社のようなリーディングカンパニーが県内にあることは素晴らしいことです。埼玉県の2003年から2013年までの名目GDPの増加額は、愛知県に次いで2位と勢いがあります。これは、企業誘致や産業支援に力を入れてきた成果です。県内の企業が支払う税金と社員の方の消費行動を通して、埼玉県の経済に貢献していただいています。御社はグローバルで事業を展開されていますが、地域との関係は、どのようにお考えでしょうか。

森谷 当社は、世界15カ国に79の拠点がありますが、それぞれが地域社会と密接な関係を持っています。さいたま市に開発研究センター・本社、本庄市児玉町に最先端の電子部品工場、比企郡吉見町に生産技術センターと内装部品工場があります。モノづくりにおけるグローバルな本社機能はすべて埼玉県に置いています。CSR活動において力を入れているのは地域への貢献と環境です。埼玉県で重要なステークホルダーである地域社会や行政と良好な関係を築き、世界の仲間たちの模範例になっていこうと思っています。

知事 県では、御社の児玉工場、吉見工場を含め、技術力や環境面ですぐれている563工場を「彩の国工場」に指定しています。彩の国工場指定の中で振興協会などをつくり、交流会を実施してもよいのではないのでしょうか。

森谷 他社との連携で学びを深めていきたいです。

知事 官と民で協力して、双方がWIN-WINになる方法はたくさんあると考えていますが、御社では社会的課題の解決についてどのようにお考えでしょうか。

森谷 まずは、事業を通じてサステナブルな社会をつくるのが大切だと考えます。当社では環境配慮型製品を創出しています。また、県内拠点はISO14000を取得し、適切な環境マネジメントを行っています。当社では

「環境コミュニケーション」懇親会を実施しています。さらに地域住民の皆さまへの貢献として「電気自動車のEV充電スタンドの無料開放」や「地下水膜ろ過システムの設置」も行っており、災害時などに地域住民の方に飲料水をご提供できるように備えています。また、すべての人が生き活きと働ける社会の実現に向けて、当社はグローバル企業として、多様な人材の活用、ダイバーシティにも取り組んでいます。

知事が、埼玉県内の企業に期待することを教えてください。

知事 工場見学会を開催いただけると嬉しいです。御社の重要な技術をもっとアピールしていただきたいと思います。

森谷 特に将来を担う子供たちにモノづくりの楽しさを伝えたいですね。2012年から、我々の従業員が小学校を訪問する出前授業「やってみようコト応援プロジェクト」を実施しています。昨年は、小学生とその保護者を対象にした工場見学も行いました。

知事 県では、次世代の人材育成にも民官で取り組んでいます。2017年度より、海外留学を支援する埼玉県グローバル人材活躍基金「埼玉発世界行き」冠奨学金を設置しましたが、早速、「カルソニックカンセイ未来奨学金」としてご協力いただき、ありがとうございます。

森谷 次世代支援は当社の社会貢献活動の柱のひとつです。県内の学生が当社の海外拠点でインターンシップに参加する「埼玉県海外インターンシップ促進事業」も実施しています。埼玉県から未来のイノベーションやモノづくりに貢献する人材が育っていくことを願っています。これからも県と連携して、社会貢献活動の着実な歩みを続けていきたいと思っています。

知事 民と官で協力して埼玉県を一層盛り上げていきましょう。



2016 in Review

Our Initiatives Across the Globe

グローバルで持続可能な社会の実現に取り組む

カルソニックカンセイグループは、世界15カ国・79拠点到展開しています。私たちのグローバル企業としての使命は、それぞれの国や地域に根差し、多様な視点と価値観を活かした取り組みを通して、社会の持続的な成長に貢献することです。今、各拠点とグローバル本社の連携によって、ダイバーシティや環境活動をはじめとするCSRの取り組みが広まり、社員一人ひとりにCSRマインドが醸成されつつあります。

グローバルな環境経営を支える イノベーションとマネジメント

カルソニックカンセイグループは、業界のフロントランナーの1社として環境配慮型の製品を次々に生み出してきました。また、グローバルな視点で環境を捉え、従業員を含むステークホルダーへの働きかけを積極的に行ってきました。こうしたグループの歩みとともに、これからの事業を通じた環境課題解決への展望をキーパーソンがお伝えします。



カルソニックカンセイ株式会社
グローバルテクノロジー本部 環境技術開発グループ 主管
木村 敏

イノベーションで さらなるエネルギーの効率化

車のエネルギー効率を担う コントロールタワーとして

私は、環境技術開発グループで、自動車の燃費を改善するためのエネルギーマネジメント製品の先行開発を担っています。先行開発とは「ゼロ」の状態から「1」を生み出す開発のことです。自動車で

使用するエネルギーをどこまで最小限にできるか、限られたエネルギーでどのようにして快適性を確保するか、再生可能エネルギーをいかに効率よく利用するかなどの課題に応える、先進的な製品の開発を行っています。

当社は熱交換器製品、空調製品、排気製品のサプライヤーとして、自動車のエネルギー放出に関わる製品をお客さまである自動車メーカーに納入しています。つまり、エネルギーの大部分を制御できる製品を開発するサプライヤーです。エネルギー全体の効率化を図るコントロールタワーとして、持続可能な社会の実現に向け貢献していくことができますということでもあります。

そうした先行開発の事例として、熱交換器製品のEGRクーラーが挙げられます。熱伝達率を向上する「VG (Vortex Generator) -FIN[®]」技術を適用することにより、エンジンの燃焼効率を上げる製品を、より高性能で小型軽量なものとして供給することが可能となりました。また、NEDO*プロジェクトである「未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発」にも参画。廃棄熱でエアコンを駆動するシステム開発を2013年から開始し、毎年成果を報告しています。

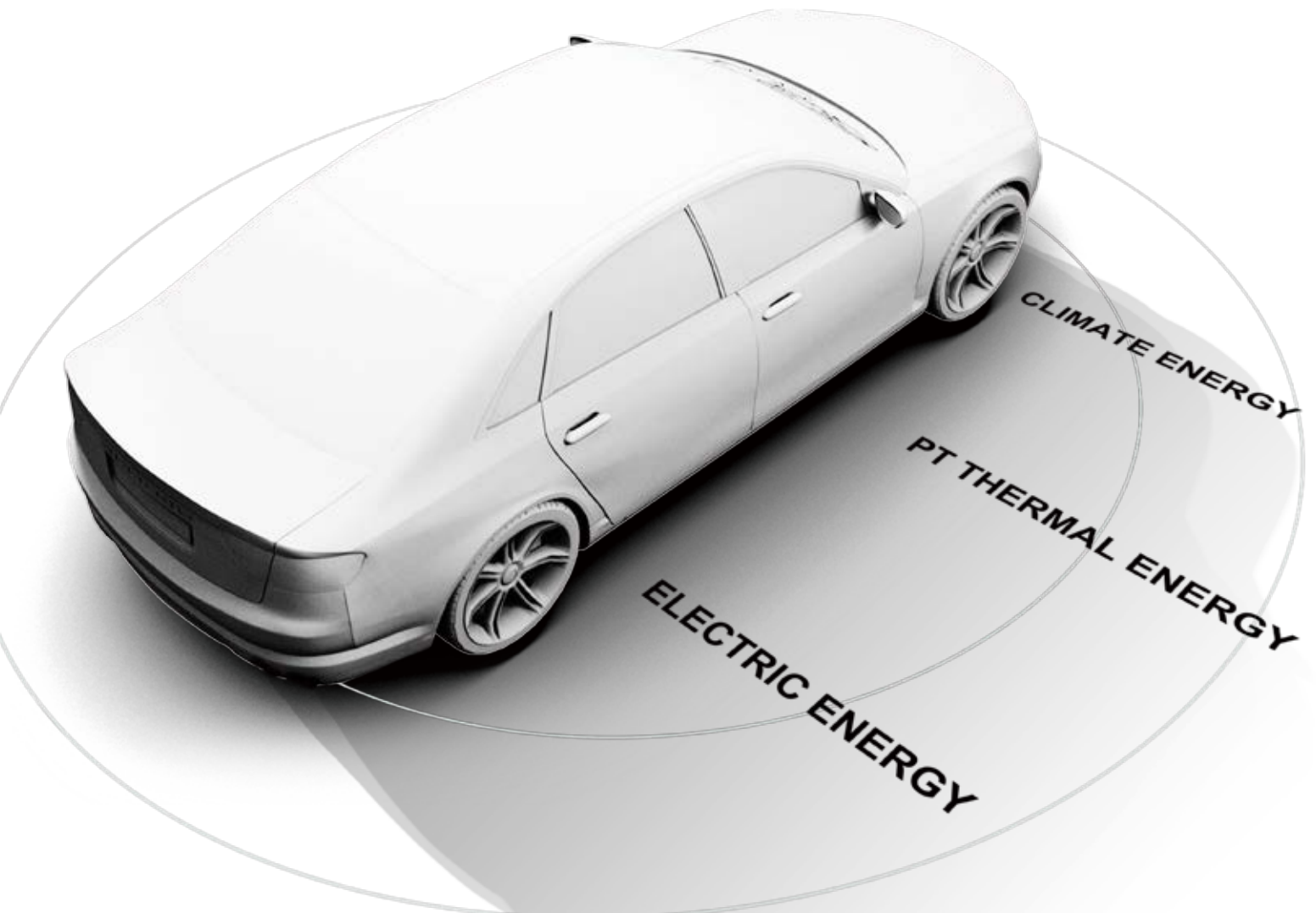
環境配慮型製品の創出目標を達成

2016年までの中期経営計画では、4つのGのうち「グリーン (Green)」では「世界をリードする環境配慮型製品を10製品創出すること」を目標として活動し、計画通り10製品を創出することができました。今後はCO₂削減のため、車の電動化が加速していく中で、熱と電気との2つのエネルギーをトータルで捉え、マネジメントをしていく必要があります。これら2つのエネルギーに携わる部門を横断したCFT (クロス・ファンクショナル・チーム) をつくり、さらに魅力ある製品を創出していきます。

世界初の製品で新たな価値を生み出す

カルソニックカンセイは今、大きな過渡期にあります。当社がシステムサプライヤーとして成長していくためには、さらなるイノベーションの創出が必要です。研究開発に一層の力を注ぎ、さまざまな企業とのコラボレーションや産学連携なども必要となってくるでしょう。新しい社会価値の創造のために独自の技術を活かし、世界初の製品を世の中に送り出していきますので、是非ご期待ください。





カルソニックカンセイ株式会社
グローバル生産本部 環境エネルギー統括管理グループ 主担
田島 唯好

環境マネジメントを グローバルに推進する

環境経営を支える環境マネジメント

私は、カルソニックカンセイグループのグローバルでの環境マネジメントを推進し、環境経営に貢献する役割を担っています。

私の活動を3つ紹介します。まずは、グローバルで

環境事故を未然に防ぐための活動です。モニタリング結果をチェックし、リスクがあるときには事前にアドバイスをすることで、事故の芽を早い段階で摘み取っています。

2つめは、2015年9月に改訂された「ISO14001:2015」への移行業務です。グローバル33サイトのうち、2016年度に移行が完了した本社を含めた3サイト以外の28サイトを2017年度中に移行する予定です。

そして3つめは、ISO14001をマネジメントツールとして活用した環境保護活動の推進です。従業員一人ひとりが環境活動に関心を持ち、大切さを認識してもらうための情報発信で、各々の業務を環境の視点で捉える活動を行っています。

より社会的価値で 評価される企業を目指して、活動を強化

従来、会社の評価指標は財務値でしたが、近年では、財務値だけでなくESG(環境、社会、ガバナンス)、持続可能な開発目標(SDGs)、人権などについて、企業としてどのように対応しているかが、国際社会から重視されるようになりました。社会への貢献度で企業が評価される時代に入りましたといえるでしょう。

これまでカルソニックカンセイが積み上げてきた活動を継続、拡大しながら、環境活動の必要性をさらに全従業員が意識できるように発信を強化していくことが私たちのミッションであると感じています。

もちろん、こうした環境活動は日本にとどまるものではなく、世界的な動きとして、パリ協定に賛同し、「2°C目標」に整合したSBT(Science Based Targets、科学的根拠に基づいた排出削減目標)の目標設定を取り入れて活動することが、当社の企業理念である持続可能な社会の実現のためには不可欠です。

環境コミュニケーションで 国際社会の要請に応える

環境法規制は世界各国で異なるうえ、規制は年々強化されるため、綿密なコミュニケーションは非常に重要です。カルソニックカンセイグループが国際社会の要請に応え続ける企業となるために、環境コミュニケーションを一層推進していきたいと考えています。



[中国リージョン]

労働業務環境の改善向上と 地球環境保全を目指して

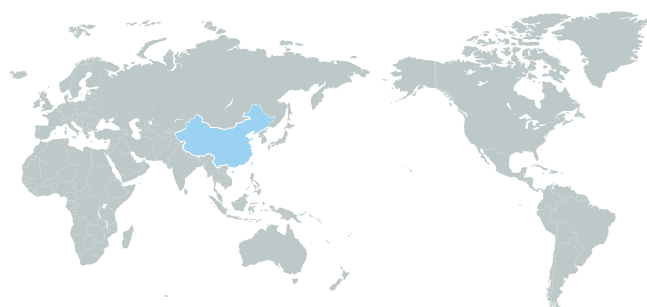
世界第2位の国内総生産高¹、13億人強の人口²、1,600万人を超える出生数³の大国、中国。カルソニックカンセイグループでは、持続可能な社会の実現に貢献するため、中国の各拠点において環境保全や労働環境改善、多様な人材の活用など、さまざまなCSR活動を推進しています。



交通安全教育



植樹活動





カルソニックカンセイ(広州)社 大連分公司
アースデイ参加者

安全な労働環境を目指して

交通安全教育で事故ゼロを目指す

カルソニックカンセイ(広州)社(CKGH)では、従業員の交通安全意識を高めるため、年間交通事故0件を目指し活動しています。2016年11月には、CKGHの主催で花都地区交通部門の警察による研修会を開催。①通勤時の歩行や自転車の交通事故防止、②乗用車を利用する際の前部座席と後部座席におけるシートベルトの正しい着用、③飲酒運転の根絶、の3ポイントの周知徹底を図りました。従業員は、警察から交通安全指導を受け、さらに自分の経験を発表し合う活動などに積極的に参加することで、交通安全に対する意識をより高めることができました。

消防訓練など火災対策を徹底

CKCでは、2016年11月に消防訓練を実施。非常階段による避難訓練を行い、火災発生時にとるべき行動を確認しました。

また、消防活動の一環として安全消防セミナーを開催。講師によるレクチャーや設備の見学、3D映画による上海消防の歴史、各種消防設備の利用方法や避難方法などについても学びました。

こうした取り組みにより、火災予防に対する意識と火災発生時に冷静に対処する能力の向上を図っています。

美しい地域環境をつくる

従業員が一丸となって積極的に活動

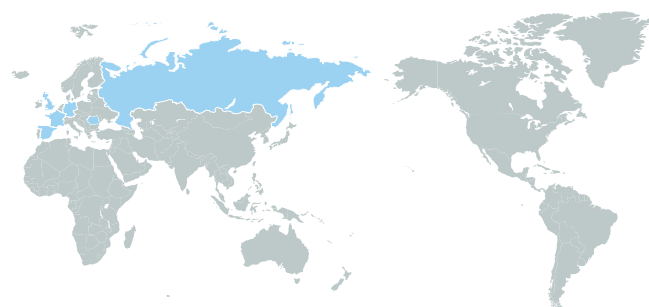
持続可能な社会の実現に貢献するためには、ビジネスを社会とともに成長させていくことが不可欠です。そのため、地域環境への取り組みとして、エネルギーの効率的な活用、道路や公園の清掃、森林の整備などを行っています。

中国では、3月12日を「植林日」と定めています。カルソニックカンセイ(広州)社では、2017年の植林日に、経理や人事総務、財務、生産など各部署の管理職が集まり、工場ゲートの周囲や食堂前に、モクセイ、牡丹、クスノキなど合計6本の木を植樹しました。この木々には、従業員に「緑を育む心を養ってほしい」、「植樹した木とともに成長してほしい」という思いが込められています。

カルソニックカンセイ(広州)社 大連分公司では、美しい環境の保全のため、毎年4月22日の「アースデイ(Earth Day)」に地球に感謝することを奨励しています。2016年度のテーマは「CO₂排出量を削減するため、エコ通勤しましょう!」。当日、普段マイカー通勤をしている従業員は、バスや自転車あるいは徒歩で通勤しました。

グローバル連携強化により活動を拡大

中国の各拠点におけるCSR活動の取り組みは、まだ始まったばかりですが、今後はグローバル本社や各拠点と連携することで、さらに強化を図っていきます。





カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社
Corporate Office
Section Leader
Karen Myring

サプライチェーンを含めた 人権保護のために

イギリスの現代奴隷法とは？

「現代奴隷法 (Modern Slavery Act 2015)」は、イギリスで2015年3月に制定された法律です。条項の中には「サプライチェーンなどにおける透明性」が含まれており、年間3,600万ポンド(約50億4千万円)¹以上の売り上げのある、イギリスで事業活動を行う団体・企業に、自社だけでなくサプライチェーンを含めたかたちで、奴隷および人身売買に関する年次ステートメントの公表を義務付けています。

グローバル化で深刻な問題に

国際人権団体「Walk Free Foundation」の推計によると、現代奴隷²に該当する人は世界で4,580万人と推計³され、世界中で深刻な問題になっています。サプライチェーンのグローバル化により、企業は自社内だけでなく、自社製品に関わるサプライチェーン全体において責任を果たすことが求められています。

サプライチェーンも含めた 人権方針を制定

このような状況を踏まえ、カルソニックカンセイ

グループでは、グローバルに対応した人権方針の策定を開始し、2016年4月1日に制定しました。従業員だけでなくサプライチェーンも含め、国際規範を尊重し、基本的な人権の保護に努めることを掲げています。

イギリスでは、現代奴隷法にのっとり、イギリス法人であるカルソニックカンセイ・ヨーロッパ社 (CKEU) が、グローバル本社や対象子会社と連携し、年次ステートメントを9月に公表しました。

既存の取り組みと必要なアクションを特定

ステートメント公表にあたり、CKEUでは、政府文書、NGOによるガイダンス、業界やサプライヤーの状況など、幅広い範囲のリサーチを実施。その後、内部統制の状況や方針、手順、実務など、約100の指標を含む詳細な確認表を作成しました。CKEUのサプライチェーン全体が対象になるため、確認表をもとに対象子会社やグローバル本社とともに現状を把握しています。

この結果、すでに実施されている適正な手順、改善の余地がある箇所、新しい措置を講じる必要がある箇所を、的確に把握することができました。

たとえば雇用契約や行動規範など、CKEUの事業の中で、多くの現代奴隷抑制施策が導入されています。サプライチェーン内では、サプライヤーの状況や契約上の義務が遵守されているかチェックするため、自動車部品のティア2サプライヤー

の現場訪問などを実施しています。さらに、欧州リージョンの社内報で特集記事を掲載し、社内での啓発活動も実施しています。

グローバルで責任を果たすために

一方、特にサプライチェーン上ではまだ改善の余地があり、そのための具体的な方策を立案しステートメントで提示しています。今後は、強制労働や人身売買、法令違反となる未成年労働などの防止に向け、イギリスだけでなくグローバルで取り組みを広げていきます。具体的には、サプライチェーンでのデューデリジェンス⁴の実施、サプライヤーにCSRへの協力を要請する「サプライヤーCSRガイドライン」の配布、社内での理解促進のための教育などを予定しています。

¹: 1ポンド≒140円で換算

²: 現代奴隷: 人身売買、強制労働、借金による束縛、強制結婚、強制的な性的搾取、子供の搾取などの、拒絶できない、または、逃げられない条件下で働いている状態の人を指す

³: 国際人権団体「Walk Free Foundation」公表のModern Slavery Index 2016による

⁴: デューデリジェンス: 組織の決定や活動による、社会、環境、経済的なマイナスの影響を特定し、その影響を回避・緩和すること

[米州リージョン]

誇りを持って地域貢献や意識改革に取り組む

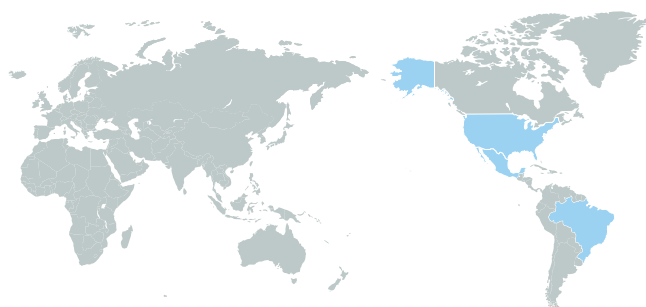
米州リージョンでは、従業員が公私ともにより良い人生を送ることのできるようなプログラムを推進するほか、地域に根ざした企業の従業員としての誇りを持ってコミュニティイベントに参画しています。



ハビタット・フォー・ヒューマニティイベント



安全衛生フェア





北米カルソニックカンセイ社
Technical Resource Management
Design Engineering Manager
Shawn Ryan

住まいとコミュニティを築き 希望をつなぐ支援活動

地域コミュニティに貢献するために

2016年度、北米カルソニックカンセイ社テクニカルセンター(CKNA MI)は、メトロ・デトロイトと呼ばれる地域のコミュニティ貢献を目的に、ハビタット・フォー・ヒューマニティ(Habitat for Humanity)*の複数のイベントに参加しました。

市民としての誇りと社会への責任

まずこの活動のキックオフとして、開発部門の管理職のメンバーは、地域に住む家族のために将来の家づくりに取り組みました。そのほかの開発グループも、チームづくりを促進する小規模プロジェクトに参画。そして最後のプロジェクトでは、さまざまな製品の開発メンバーが結集し、コミュニティイベント「Rock the Block」を支援しました。このイベントは、近隣地域を再活性化させ、困窮している家庭や個人、退役軍人などの方々をサポートするものです。

参加を通じてCKNA MIは、地域の市民としての強い誇りと社会への責任を示すことができました。今後もこのような活動の支援を続けていきます。

*「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」の実現を目指し、世界70カ国以上で住まいの問題に取り組む国際NGO



北米カルソニックカンセイ社
Human Resources
Generalist
Kim Concialdi

安全衛生フェアで 健康と安全に配慮

安全について学び考える機会に

北米カルソニックカンセイ社(CKNA)では、社の提供するさまざまな福利厚生制度について従業員に啓発することを目的に、数年前に安全衛生フェアをスタートしました。健康や法務、退職などに関連する各担当部門が、従業員と直接関わることでできる機会になっています。また安全については、消防署や警察署、水上安全関連団体などの組織の担当者から直接、自動車や住宅、個人の安全などに関する情報が提供されています。

外部専門家が健康と安全のアドバイス

2016年度は、6月にCKNAの福利厚生・安全チームが各拠点でフェアを開催し、合わせて1,200名以上が参加しました。保険会社の担当者、地元の警察や消防・救急隊員、医療関係者らが拠点を訪問し、従業員からの質問に答えたほか、仕事外での健康的なライフスタイルや安全への取り組みに関する認知を促進しました。



北米カルソニックカンセイ社
製造リーダーシッププログラム 第二世代

さらなる成長を促す リーダーシップ研修

参加者から視野が広がったとの声

CKNAによる製造リーダーシップ開発プログラム(Manufacturing Leadership Development Program : MLDP)は2015年度に開始され、初回は「第一世代」と呼ばれる12名が参加しました。

MLDPは、時間給従業員全員に、カルソニックカンセイのあらゆる分野におけるさまざまな職位への昇進を目的として、リーダーシップスキルを開発する機会を提供する3カ月間の教育プログラムです。参加者はリーダーや上司、管理職などから推薦されます。

研修には、4週間の現場管理教育、1週間のQSES¹教育、1週間の新車立ち上げ、そのほか生産管理や内製コスト、人事に関する教育が含まれています。さらに、複数のテネシー地区の拠点の生産責任者のもとで6週間のジョブシャドウイング²も行われます。

2016年度は、第二世代11名が参加。参加者は、研修を通じて自分の業務に関する知識が深まり、会社の事業をより広い視野で見ることができるようになったと振り返っています。

これからも一人ひとりを育むために

CKNAでは、今後も、会社だけでなく個人の人生の両方において、成長し成功できるよう従業員を支援していきます。

¹: Quality System Evaluation Standard: カルソニックカンセイ独自の品質システム評価基準

²: 業務中に共に行動して業務などを学ぶこと

[アジアリージョン]

ダイバーシティの促進と 環境活動で地域社会へ貢献

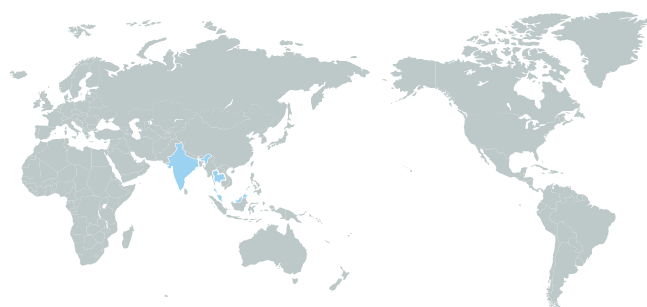
アジアリージョンにおける主要な生産拠点のひとつがタイです。ダイバーシティ推進による平等な雇用機会の創出や、リサイクル、植樹活動をはじめとした環境保全などの活動を通して地域に貢献しています。



植樹活動



代表社員による Foundation of People with Disability International へのプルタブの寄付





カルソニックカンセイ・タイランド社
Organization Promotion Division
Vice President
Chalavalai Wutthikornkriengkrai

障害者雇用を推進し平等な雇用機会を

厳しい障害者就労の実情*

タイでは2007年、障害者エンパワーメント法が成立し、障害者雇用がさらに推進されました。タイの障害者は約174万人といわれており、その約半数は肢体不自由者で、それに聴覚障害、視覚障害のある方が続きます。就労している障害者は約25万人で、農業分野やその他の分野でのインフォーマルワーカーと自営業の方が約85%を占めています。対して、民間企業の就労は6.3%、政府関係機関の就労は1.5%程度にとどまっているのが現状です。

平等な雇用機会と 能力を発揮できる環境を提供

カルソニックカンセイ・タイランド社(CKT)では、ダイバーシティ推進の一環として、障害のある方を積極的に雇用しています。現在、他の従業員と平等な機会と権利のもと、障害のある従業員15名が勤務し、さまざまな部門や全工場に配属されています。長期間にわたり勤務を続けられる環境を提供するため、勤務中の障害者をどうサポートするかについて上司の研修なども実施しています。2016年6月には、CKTの障害者雇用の状況について、障害者エンパワーメント事務局による視察訪問を受けました。CKTは今後もダイバーシティを推進し、一人ひとりが活き活きと働くことができるよう努めていきます。

*在タイ日本大使館Webサイト「タイの障害者雇用」資料による



「私は聴覚障害者ですが、唇を読み手話でコミュニケーションをとることができます。私のまわりには、支えてくれるたくさんの友人がいます。私はCKTでやりがいのある仕事をし、素晴らしい同僚と働き、そして収入を得ることができています。会社そして社会の一員として、CKTで働くことができ本当に嬉しく思っています」

Taksapon Pannaroj



カルソニックカンセイ・タイランド社
従業員代表グループ

全従業員をあげて社会貢献と環境保全に取り組む

リサイクルで義足の普及・支援

CKTでは、約2,000名の従業員が在籍しているため、毎日、缶などのリサイクル可能な廃棄物が多く排出されます。通常は、スクラップとして業者が有料回収していますが、プルタブ式リングは助けが必要な方々のために役立てることにしました。

リサイクルされたプルタブ式リングは、義足部品として活用されています。義足に使用される材料は非常に高価なため、経済的に余裕のない方には手が届きづらいという状況がありますが、このプルタブ式リングの寄付により、輸入ではなくタイで製造される義足を届けられるようになります。

植樹活動を通じて環境保全

2015年12月、CKTの社長と従業員代表で、プミポン国王88歳の誕生日に、記念の植樹活動を行いました。当社工場があるアマタナコン工業地域の企業と共同で、バンコクとチョンブリ地区を結ぶ新道の周辺に3,000本の樹木を植えることで、環境問題の改善に貢献しました。



2016 in Review Highlights

2016年度の活動ハイライト

カルソニックカンセイグループは、グローバルな社会課題を踏まえ、ISO26000の「7つの中核主題」に即してCSR重要課題を特定し、その解決に向けて多様な活動を推進しています。人権方針の制定、環境配慮型製品の創出など、2016年度も大きな成果をあげることができました。



サステナビリティ経営の方針

カルソニックカンセイグループはグローバル社会の一員として、お客さまやお取引先など、すべてのステークホルダーからの信頼と期待に応え、ともに発展していくことが必要であると考えています。

このような認識のもと、私たちは目指す姿である「コーポレート・ビジョン(企業理念)」、「ミッション・ステートメント(使命)」とビジョン達成のために従業員が持つべき「バリュー:CK WAY(行動指針)」を設定し、社会倫理に基づいた事業運営を行っています。



コーポレート・ビジョン (企業理念)

グローバルな自動車関連企業として、世界をリードする技術革新とモノづくりに情熱を持って取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

ミッション・ステートメント (使命)

グローバル (Global)

私たちは多様な考え方を尊重し、ダイナミックな行動により、世界有数の自動車部品メーカーとしてのブランドを構築します。

夢・情熱 (Inspired)

私たちは、我社の共通の価値観をベースに、誇り、夢、情熱を持つひとつのチームとなります。

世界をリードする革新性 (World Leading Innovation)

私たちは、創造性とモノづくり精神を融合し、高品質の製品とプロセスで、市場をリードする価値をお客さまに提供します。

持続可能な社会に向けて (Sustainable Society)

私たちは、よき企業市民として、株主、地域社会、チーム・メンバーに価値を提供し続けることにより、社会的責任を果たします。

バリュー:CK WAY (行動指針)

個人 (Individual)

1. 挑戦 (Challenge)
2. 自律 (Independence)
3. 学ぶ (Learning)

実行 (Task)

1. 事実を捉える (Fact-Driven)
2. 継続性 (Continuous)
3. コミット&ターゲット (Commitment & Target)

チーム (Team)

1. クロスファンクション/クロスリージョン (Cross Function / Cross Region)
2. 人への愛着 (People Oriented)
3. ダイバーシティ (Diversity)
4. 透明性 (Transparency)



CSR方針

ステークホルダーと社会への責任

カルソニックカンセイグループの「CSR方針」は、「コーポレート・ビジョン」を実現するために、すべてのステークホルダーと社会に対して実行をお約束する責任と指針です。この方針に基づいて、従業員一人ひとりが社会的責任を自覚し、誇りを持って日々の活動を行うこと、社会的側面、環境的側面、経済的側面からバランスの良い事業運営を行うことで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

お客さまへの責任

多様化する時代の要請と期待に応え、お客さまにご満足いただける質の高い製品とサービスを提供し、信頼されるNo.1サプライヤーを目指します。

お取引先への責任

部品・サービスを提供していただくお取引先とイコールパートナーとして連携し、公正で倫理的な事業慣行を通じて、相互に競争力の向上と持続的な成長を図ります。

従業員への責任

従業員一人ひとりの多様性と価値が尊重され、より企業と社会に貢献できる人格育成の場と安全で健康な環境が提供されて、誰もが夢と情熱と誇りを持って豊かな人生を送れる企業づくりを目指します。

従業員の安全衛生責任

『従業員の安全と健康の確保はすべてに優先する』という基本理念のもとに、全員参加で業界トップの安全で適正な職場を実現します。

株主・投資家への責任

持続的に競争力ある製品を開発し収益の向上につなげるとともに、公正な事業運営と積極的な情報開示を行って企業価値を向上させ、株主・投資家に還元します。

社会への責任

モノづくり

環境技術、安全技術、快適技術の3つの技術分野を重点課題として取り組み、製品を通じて車社会に貢献します。

環境：地球環境に優しい車づくりのために

安全：事故の無い車社会づくりのために

快適：快適に運転できる車づくりのために

環境

従業員一人ひとりが常に自然の原点に立ち返るとともに、新たな技術統合による知的革新を通じて地球環境保全に努め、心豊かな社会の発展に貢献します。

社会活動への参画・社会貢献

事業活動全般にわたり、関わりのある地域社会や社会活動に積極的に参画し、良き企業市民として社会の持続的な発展に貢献します。



[組織統治]

責任のある経営基盤の構築

カルソニックカンセイグループは、事業活動を通じて豊かな社会づくりに貢献し、すべてのステークホルダーとの良好な関係を築くことが重要であると認識しています。そして、社会から信頼され続ける企業であるために、CSRを強く意識したコーポレートガバナンスを整備し、順法で倫理的な事業運営を徹底しています。さらに、「万一」のときにも安定的に製品を供給できるリスクマネジメント体制を構築しています。

2016年度の活動ハイライト

» CK

コーポレートガバナンス体制

カルソニックカンセイは監査役会設置会社であり、取締役会と監査役・監査役会を中心としたコーポレートガバナンス体制を構築しています。

カルソニックカンセイは、2015年6月1日施行のコーポレートガバナンス・コードに対応し、各種原則に対応しているほか、コーポレートガバナンス報告書やサステナビリティレポートを通してタイムリーで適切な情報開示に努めています。

取締役5名のうち2名が社外取締役であり、経営に多様な視点を取り入れるとともに、取締役の相互監視機能を強化しています。監査役は専門的な見地から取締役の職務執行に対する監査を厳正に行っており、監査役4名のうち半数の2名が社外監査役であり、より独立した立場からの監査を確保し、監査機能の強化を図っています。



» グローバル

万が一に備えたBCP(事業継続計画)

カルソニックカンセイグループは、地震や台風などの災害発生に対してBCP(事業継続計画)として「防災管理規定」を設定し、この規定に基づき従業員がとるべき行動ガイド「全社防災マニュアル」を整備しています。

グループ内で生産継続に支障が生じる可能性がある災害が発生した場合には、グループ本社内に「中央防災対策本部」を設置します。

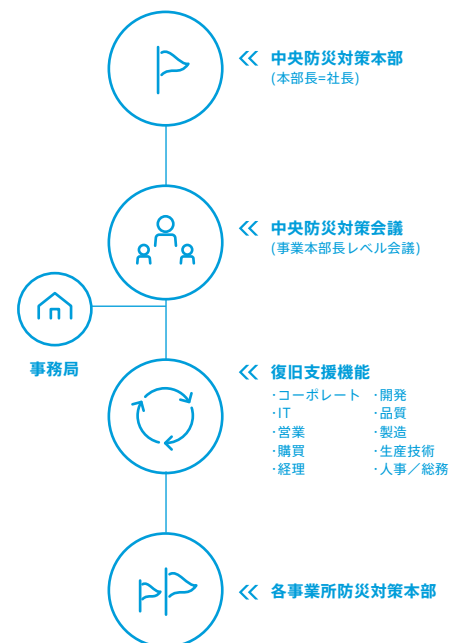
これまでに「中央防災対策本部」が発動されたのは東日本大震災とタイの大洪水の2件であり、従業員の安全確保と迅速な生産復旧に効果をあげることができました。

また、広域大規模地震については、国内グループ全事業所に緊急地震速報システムを設置するとともに、火災につながる可能性のある製造拠点には非常用発電機を設置し、消防活動がいつでもできるように整備しています。

カルソニックカンセイ研究開発センター・本社では、一時避難所として一般の帰宅困難者の方々を受け入れる体制も構築しています。



防災体制



MY CSR

カルソニックカンセイグループ従業員が、社内外問わず、自身で実践しているCSR活動やモットーを紹介します。



■ (左から)董佳敏、陳曦、黄斌彬

未来を担う子供たちの健康、生活、教育を支援するため、2017年2月28日、「中国児童少年基金会(社会的に弱い立場にある子供への支援基金)に寄付金を通して協力しました。



[人権]

人権を尊重する企業風土の醸成

カルソニックカンセイグループは、「カルソニックカンセイ行動規範」において、多様性および人権の尊重を明示しています。さらに「人権に関する基本方針」および「人権についての重点方針」を制定し、人権および労働への配慮に向けた従業員教育を徹底するとともに、サプライチェーンへの人権尊重の浸透を目指したアクションをグループ全体で加速しています。

2016年度の活動ハイライト

» グローバル

国際規範を支持する人権方針を制定

2016年4月、カルソニックカンセイグループは「人権に関する基本方針」および「人権についての重点方針」を制定しました。グローバル化する事業の現状を考慮し、国連「国際人権章典」「ビジネスと人権に関する指導原則」「国連グローバルコンパクト」「労働の基本原則及び権利に関するILO宣言」などの国際規範を支持しています。さまざまな国・地域で、人種・文化などを尊重して業務を行っていただけるよう、グループ全従業員に対して人権方針を徹底するための教育・啓発を進めています。

» グローバル

グローバル課題の解決へ

イギリスで2015年3月に制定された現代奴隷法にのっとり、カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社は、2016年9月30日、2015年度(2015年4月～2016年3月)の年次ステートメントをwebサイトで公表しました。今後は、強制労働、人身売買、法令違反となる未成年労働などの予防に向け、イギリスだけでなくグローバルで取り組みを広げ、引き続きサプライチェーン全体において責任を果たせるよう努めています。

>> 12-13ページに詳細が掲載されています

» グローバル

人権尊重の浸透のために



社内CSRニュースレター



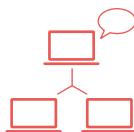
社内報

CSRの社内eラーニング
(インターネット接続のない従業員には紙教材配布)

社内掲示ポスター



人権週間のイントラネット告知

人権週間にイントラネットから
人事担当役員のメッセージ発信

購買部門を対象とした社内研修*



新入社員研修(約120人対象)*

*CKのみ

» グローバル

サプライチェーンの人権デューディリジェンス

主要なお取引先9社を対象に人権デューディリジェンスのアンケート調査のトライアルを実施し、9社中8社から回答がありました。コメントや結果を活かし、2017年度は本格的なアンケート調査の実施を予定しています。

人権デューディリジェンスの
アンケート調査

9社中 8社
からの回答



Mal Hughes

定年退職された元長期勤続者23名をスラネスリー工場(イギリス)に迎え入れる一日を企画しました。工場の歴史や今後の計画を確認し、会社の変化について学んでもらいました。現従業員、元従業員問わず、士気を高める実り多いイベントとなりました。



Sangchan Thammanok

子供の笑顔を見るのが好きで、高山に住むいわゆる「タイの山岳民族」の子供たちによく会いに行きます。私にとって何かを分かち合うことと寄与は大きな意味があります。社会のほんの一員に過ぎませんが、夢は大きく持って援助を続けていきたいです。



[労働慣行]

個と多様性を重視する組織づくり

カルソニックカンセイグループは、すべての従業員の共通の行動指針として「CK WAY」を、管理職の行動の基礎として「CKLC(CKリーダーシップコンピテンシー)」を設定し、グループ共通の価値観として、職場での実践に結び付けています。ダイバーシティやワークライフバランスを促進し、すべての従業員が活き活きと働くことができる職場づくりを目指すと同時に、一人ひとりの能力・多様性を活かすための評価制度や人材育成制度の充実を図っています。

2016年度の活動ハイライト

» 日本

個の能力・多様性を活かす公正な処遇・評価

カルソニックカンセイおよび国内グループ会社では、「CKLC」「CK WAY」を軸としたコンピテンシー評価をもとに年俸・賃金を改訂し、個人々の業績評価に基づいてインセンティブ・賞与を支給しています。同一労働ランクにおける基本給、報酬総額での男女差はありません。コンピテンシーは年1回、個人別業績は年2回、上司と部下との間で面談を行って達成度を確認しており、その中で評価のフィードバックと並行して個人々のキャリア形成についても論議しています。



» グローバル

個の能力を伸ばす人材育成

カルソニックカンセイグループは、会社の持続的な成長を実現するのは何よりも人材であるとの考えのもと、「モノづくり」「グローバル」に重点を置いた人材育成を行っています。

10名
の技能マスター



技能マスター制度 (CKのみ)

2016年4月に開催されたマスター認定委員会にて、新たに5名が認定され、現在10名がマスターとして活躍しています。

モノづくり人材

グローバル競争の中で鍛えられたモノづくりをさらに高め、それをグローバルに水平展開していくため、カルソニックカンセイのモノづくりの基本であるCKPS(カルソニックカンセイ プロダクション システム)研修や各種専門技術研修などを通じて、知識・技術習得を計画的に行っています。また、モノづくりで必要な技能を明確にするため、技能マスター制度を導入しています。



グローバル人材

次世代のグローバルビジネスリーダーを育成することを目的に、日本を含む各国・地域のリーダー候補を対象に英語による集合研修を行うGBLT(グローバルビジネスリーダートレーニング)を毎年実施しています。また、グローバルなモノづくり人材を育成するため、各国・地域の工場長ならびに工場長候補者を対象にグローバル工場長研修も行っていきます。



Cristina Ghita

私は職場で常にマイノリティーの雇用を推奨しています。そのためここにはロマの同僚がいますが、彼らはとてもよい仕事仲間です！



Elvira Gallardo

私たちの文化を知ってほしいと思い、カタルーニャ地方のクリスマスプレゼントにまつわる伝統と、カタルーニャの守護聖人であるサン・ジョルディの日について、欧州リージョンの社内報に記事を書きました。

» グローバル

ダイバーシティの推進

カルソニックカンセイグループでは、多様な価値観を持つ従業員が健全なコンフリクトを通じて、新たなイノベーションを生み出すことが、企業の成長・個人の成長につながるの考えのもと、ダイバーシティ推進をグループ全体の重要な経営戦略のひとつとしています。

» 日本

女性がより活躍できる会社へ

カルソニックカンセイは、出産、育児といったライフステージを抱える女性が、持てる能力を最大限発揮できる職場や働き方の実現を目指し、従業員の意識調査、働き方向上委員会、ダイバーシティ推進チームによる従業員の声の集約などを行いながら、諸施策に反映させています。女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画において、2021年3月末までに女性管理職数を2016年3月末時点(15名)から倍以上に引き上げる計画を掲げています。

» CK

従業員の声から社内インフラ改善

2017年2月、本社社屋各階の共用部と執務エリア間の手動セキュリティドアの工事を実施し、自動ドアへ変更しました。これは車いすを利用する従業員からの手動ドアの通過が容易ではないとの声を反映し、アクセシビリティを向上させることとしたものです。

2016年10月には、従業員からの要望を受け、本社内の会議室の一つを礼拝室とすることとしました。特定の宗教に関わらず利用できるようにルールを決めて運営しています。

» 日本

従業員データ

	2014	2015	2016
正社員数 [人]	3,622	3,643	3,741
男性 [人]	3,346	3,352	3,419
女性 [人]	276	291	322
平均年齢 [歳]	44.2	44.4	44.2
勤続年数 [年]	19.6	19.4	18.3
離職率 [%]	1.2	1.0	1.3
平均給与 [円]	6,055,373	6,237,718	6,394,249
障害者雇用率 [%]	1.85	1.93	2.07
育児休業者 [人]	15	13	14
介護休業者 [人]	2	0	1



» 日本

ワークライフバランスを奨励

カルソニックカンセイおよび国内グループ会社は、社会構造の変化とともに年々多様化している従業員のライフスタイルを支援するため、制度の整備を進めています。次世代育成支援対策推進法に基づいた諸施策においては、法定水準を上回る制度を整備しています。

出産



産前産後休暇

出産日からさかのぼり6週間、ただし多胎妊娠の場合は14週間、出産後が産日の翌日から起算して8週間休暇の取得が可能



健康検診等にかかる措置

申し出があれば、妊娠中または出産後1年以内において保健指導および健康診査のために必要な時間は就業を免除

介護



介護休職制度

入社1年未満の従業員も介護休職を取得可能(法令では1年未満の従業員は対象として除外可能)



フレックス制度

8時30分から17時30分までの間で最低1時間以上の勤務をすることのみを条件とし、コアタイムの無いフレックス制度を設置

育児



育児休業

子が満2歳に達した次の4月まで休職可能(法令では1歳6カ月まで)



定期面談制度

育児休業中の従業員が復職しやすいように面談を設定



育児のための短時間勤務

小学卒業年まで短時間勤務可能(法令では小学3年まで)



配偶者海外赴任時帯同休業制度

配偶者の海外赴任に同行し、引き続き勤務する意思を持つ従業員は最長3年、配偶者の海外勤務期間中休職が可能



Kanapod Panyasiriboon

機会と自分の現状が許せば、私たちは多くの社会的責任を果たすことができるのです。寄与する者となることで私の心は温まります。私は、より衛生的な環境づくりのためにトイレを備え付けたり、動物保護施設の動物のために里親を探すといったあらゆる社会活動に喜びを見出しています。



Ian Hodgson

地域の学校のための職業紹介週間を支援しています。1,500名の10代の生徒たちにワークショップ、実技デモンストレーション、求職求人フェアなどへ参加できる機会を提供し、CKの作業現場見学も行っています。



[環境]

環境への取り組み

カルソニックカンセイグループは、地球環境の保全は人類共通の課題と認識し、すべての活動における基本的な考え方として環境方針を定めています。企業活動の全段階における環境負荷低減や環境配慮型製品の創出により、ステークホルダーの皆さまから信頼される企業を目指し、社会の持続可能な発展に向けてまい進しています。また、パリ協定など新しいグローバルな取り組みにも積極的に貢献していきます。

2016年度の活動ハイライト

» グローバル

世界をリードする環境配慮型製品を10種創出

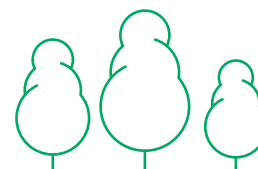
10

PRODUCTS

2011年度から2016年度までの6か年中期経営計画「CK GX4 T10」では、成長戦略のキーのひとつとして“Green”を掲げ、世界をリードする次世代環境技術／製品を10種以上創出することを目指してきました。2016年度末までに10種の製品化を実現し、目標を達成。

たとえば、高性能ビルトインオイルクーラー／ウォーマーでは、運転時の燃費向上およびCO₂排出量を削減、モーターファン用ブラシレスモーターでは、効率的な回転制御により冷却性能の最適化を実現し省エネに貢献しています。今後も引き続き、業界をリードする製品の創出に努めていきます。

中期経営計画「Green」実行状況



Weera Baimo

自分のために生きようとするれば、その日その日だけを生きることになる。他の人のために生きようとするれば、たとえそこになくても、人のためにしたことは、それを必要としている人の中に生き続けるのです。



● 中川 裕子

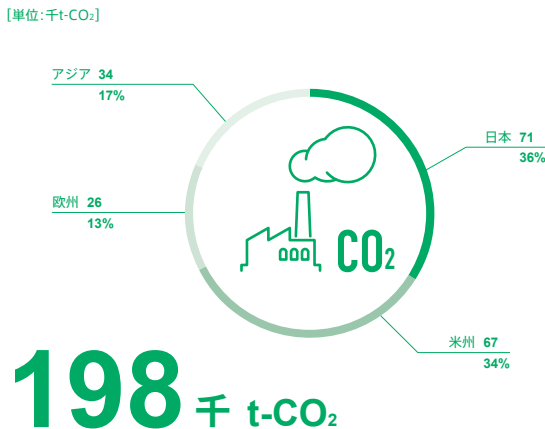
ボランティア活動に関心があり東日本大震災復興ボランティアに参加しています。活動参加時折、会社のロゴ入りTシャツを着用しています。

» 日本 海外

気候変動への取り組み

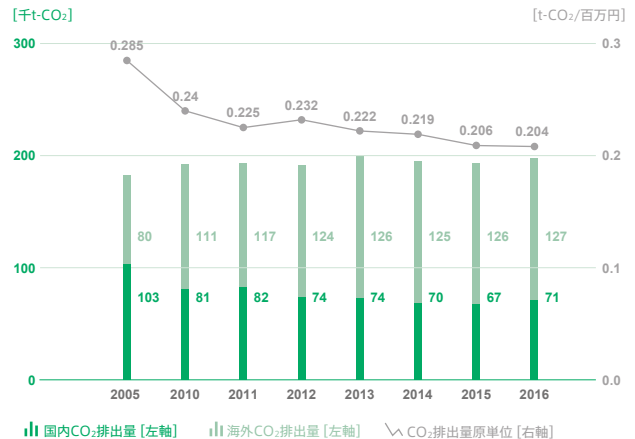
カルソニックカンセイグループは、低炭素社会の実現に向けてカーボン・ミニマム（環境負荷低減活動）に取り組んでいます。2011年度から2016年度までの中期経営計画「CK GX4 T10」にあわせ、「カルソニックカンセイグリーンプログラム2016」として2016年度の目標と年度ごとのマイルストーンを定め、取り組みました。

カルソニックカンセイグループの地域別CO₂排出量



日本は前年度に引き続き、全拠点参加で「省エネ特別活動」を展開し、アイテムの抽出と事例の共有を行い、改善につなげました。海外では、省エネルギー診断でアイテムの抽出を行い、事例を共有し改善の取り組みを進めました。

カルソニックカンセイグループのCO₂排出量と排出原単位推移



» 日本 海外

CDPからの評価



CDPIは、世界中の企業・自治体に環境パフォーマンスデータの開示を求める国際的な非営利組織で、その分析・評価は、機関投資家、世界の政策決定者などに利用されています。気候変動への取り組みに関する調査「CDP気候変動レポート2016」で、カルソニックカンセイグループは、2015年の「D」から評価が上がり、「A-（リーダーシップレベル）」評価を獲得しました。

» 日本 海外

資源循環/3R (Reduce, Reuse, Recycle) を推進

「カルソニックカンセイグリーンプログラム」では、3Rの取り組みとして資源循環を重視し、排出物削減と埋立率ゼロ（Zero Landfill）に取り組んでいます。

排出物原単位
[排出量/売上高]

日本
-26.1%

2016年度目標:18.1%削減
[2005年度比]

埋立率ゼロ
[埋立量/廃棄物量]

日本
0%

2006年度以降、継続的に達成

水使用量原単位
[使用量/売上高]

日本
-19.7%

2016年度目標:21.4%削減
[2009年度比]

海外

-18.8%

2016年度目標:6.0%削減
[2010年度比]

海外

0%

2016年度目標:埋立率ゼロ維持

海外

-2.6%

2016年度目標:4.0%削減
[2010年度比]



英国 Shauna Wilkinson

先日、イギリスに14しかない主要小児医療センターのひとつ、ニューカッスル市にあるグレートノース小児病院(GNCH)のために、イースターエッグを集めるイースターエッグ寄付活動に参加しました。



● 羽柴 勝

岩手県北上市の地元消防団に約30年間入団しており、地域における消防・防災力の充実および強化を図ってきました。社内でも10名の団員がおり、会社も北上市消防協力事業所として認定され、地域の社会貢献をしています。



[公正な事業慣行]

倫理的な行動基準を守る

カルソニックカンセイグループは、事業を円滑に推進していくうえで、すべての従業員が高い倫理観を持ってコンプライアンスを実践することが重要であると認識しています。2003年の「カルソニックカンセイグローバル行動規範」制定を機に、グローバルなコンプライアンス体制の強化に向けて従業員の教育・啓発を徹底しています。また近年はお取引先とのコミュニケーションを強化し、サプライチェーン全体で取り組みを推進しています。

2016年度の活動ハイライト

» グローバル

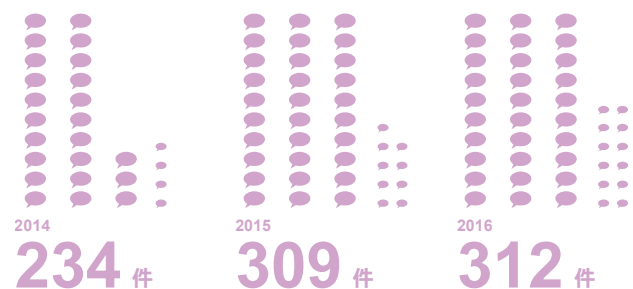
コンプライアンスへの意識づけ強化

カルソニックカンセイグループは、コンプライアンスに対する意識づけの強化のため、行動規範のトレーニングを毎年実施し、誓約書の回収を行っています。2016年度の誓約書回収率は、国内・海外ともに100%となりました。また、グローバルリスクとしての「独占禁止法」および「賄賂防止法」に関しては、行動規範教育の一環として、グローバル、日本、海外拠点でそれぞれ基本ポリシー・ルールを策定し、グループ全社において周知化と啓発を行っています。2016年度は、全員参加型の教育のほか、日本での賄賂防止法の役員研修をはじめ、日本、米州、欧州での関係部署を対象とした賄賂防止法および独占禁止法の研修も実施しました。今後アジアでも同様の研修を順次実施していく予定です。お取引先に対しても、「サプライヤーCSRガイドライン」を展開し、賄賂防止などコンプライアンス徹底への協力をお願いしています。



日本での賄賂防止法の役員研修

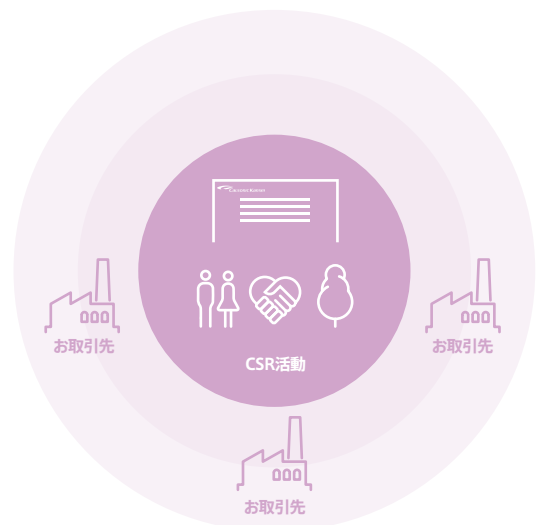
内部通報件数の推移



» グローバル

サプライチェーンマネジメント

カルソニックカンセイグループの事業展開のグローバル化に伴い、サプライチェーンもグローバルに広がる中、CSR活動を推進するために私たちの考え方や方針をお取引先と共有しながらCSRマネジメントの向上を目指しています。2016年度は、世界的に関心が高まっている人権・労働・環境問題やCSRに対する社内体制の強化を行い、サプライヤーデューデリジェンスのアンケート調査のトライアルを実施しました。また、2015年度に作成した「カルソニックカンセイ サプライヤーCSRガイドライン(日本語・英語)」に、2016年5月に紛争鉱物対応などの要請を新たに追加しました。今後も引き続きサプライチェーンを含めたCSR活動を推進していきます。



■ 王 晨

会社の中期経営計画に貢献するため、最近毎日自転車通勤しています。通勤時間もすく短縮できます。一緒に省エネ生活を始めましょう～



● 大山 和代

私たちFREE STYLEは工場内で出る空き缶のプルタブを集めて、近隣の小学校に寄贈しています。学校では、それを福祉や子供たちが使う教材などに役立てているそうです。皆さまのご協力のおかげで、工場が集められるプルタブは年間約72,000個(約24kg)にもなります。



[消費者課題]

高品質で安全な製品の提供

カルソニックカンセイグループが重視する「品質」とは、パフォーマンス向上はもちろんのこと、安全性や信頼性の確保、快適性の実現も含む、多様なお客さまのご期待に応えるためのものです。この考えに基づき、品質を会社全体の最重要課題と捉え、開発・設計、生産、物流などすべてのプロセスで高い品質を提供するために活動を続けています。また、お客さまとの対話を積極的に実施し、お客さま対応力の向上にも注力しています。

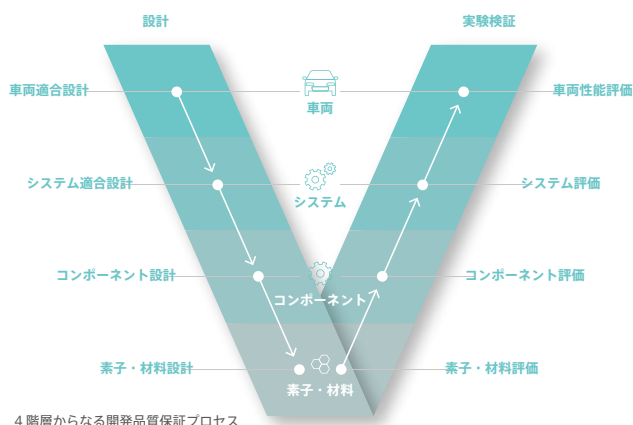
2016年度の活動ハイライト

» グローバル

品質・信頼性向上への取り組み



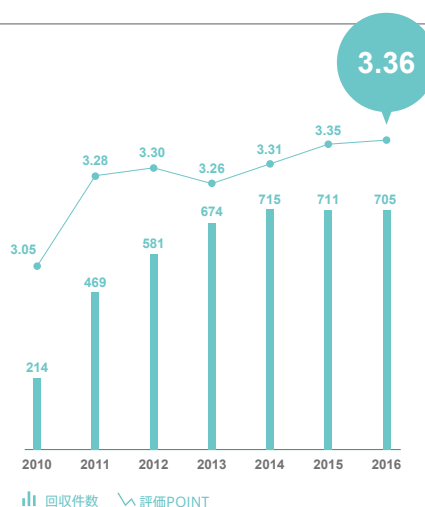
カルソニックカンセイグループは、品質・信頼性に関する技術力の向上に率先して取り組んでいます。自動車業界の新しい品質規格ISO/TS16949を、自動車部品システムメーカーとしてはいち早く2003年に空調部門で取得したのをはじめ、2005年には全社・全製品で取得しました。また、世界の市場環境を調査し、最新鋭の設備と実験評価技術により市場環境を再現し、「車両」「システム」「コンポーネント」「素子・材料」の4つの階層で製品開発を行うことで、高い開発品質を確保しています。開発品質保証プロセスを確実に実行し、安全性や耐久性が高く、お客さまが満足される製品開発を追求しています。



» グローバル

お客さまからの評価

カルソニックカンセイグループは、車社会のモノづくりを通して業界をリードし、さまざまな価値を提供し続けていきたいと考えています。お客さまのニーズに即した、高品質で適正価格な「良いモノづくり」にまい進するとともに、お客さま対応力の向上にも注力しており、2005年より年に一度「顧客満足度調査」を実施しています。「顧客満足度調査」は、品質・価格・納入・開発・マネジメント・営業活動(QCDDMS)の各項目に5段階の評価づけと具体的な改善要望のコメントをいただく形式で実施しています。2016年度は705件の回答を得ることができ、評価は、3.36ポイント(5ポイントが最大)となりました。この調査を接点としてお客さまとのコミュニケーションをさらに充実させ、顧客満足度の向上を目指します。



Atipong Tahlha

知識の共有はのこぎりの刃を研ぐようなものです。分かちあえばその分多くを学べるので、知識もどんどん増えます。私は自分の知識を他の人々と共有することを楽しんでいます。



● 沼部 香織

ダイバーシティ推進リーダーとして情報の共有化と率先垂範を図ることで、目的や効果を十分に考慮した活動を進めています。今後の活動プランとして、性別・職種差のない働きやすい職場の環境づくりに取り組む予定です。



[コミュニティ参画・開発]

地域社会への貢献

企業には、事業を通じて接点を持つ多様なコミュニティとの共存共栄関係を構築することが、サステナブルな社会づくりの観点から求められています。カルソニックカンセイグループは、企業市民の一員として、未来を担う次世代の支援や地域社会のコミュニティ活動などに積極的に参画し、グループの特徴やノウハウを活かした社会貢献を多面的に展開しています。

2016年度の活動ハイライト

» グローバル

グローバルで社会貢献活動を強化

カルソニックカンセイグループは、より良い社会の発展に貢献するため、社会貢献活動の拡充を進めています。2016年度は今後の活動の方向性について検討し、4つの柱を軸に、グローバルで社会貢献活動を強化・展開していくこととしました。



次世代支援



安全



環境



コミュニティ / 地域社会

» 日本

未来のモノづくり人財を支援

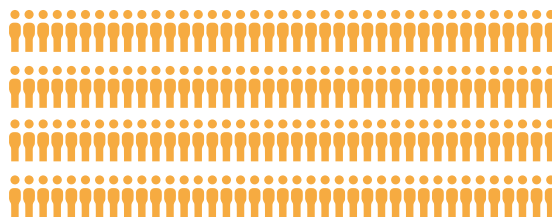
カルソニックカンセイおよび国内グループ会社の社内の公募スタッフで構成された「Team SKETT」を通じて、小学生を対象にさまざまなモノづくり体験の機会を提供しています。

公益社団法人自動車技術会主催の小学生向け体験型展示会「キッズエンジニア」に2008年の初回より毎年参加しています。

2016年度は8月に横浜で開催された「キッズエンジニア2016」、11月に東北で開催された「ミニキッズエンジニアin東北」に参加。4,000名以上の参加者がモノづくりの楽しさを学びました。さらに、2012年よりスタートした小学校向け出前授業では、2016年度中に16以上の小学校で800名以上の小学生に理科の楽しさをお伝えしました。



キッズエンジニア(2016)の参加人数



4,000 人
以上の参加者

小学校向け出前授業



16
以上の小学校へ出張

800 人
以上の小学生が参加



● **山本 美紀**
フェアトレードコーヒー販売者を見かけたら、購入しています。



■ **胡 俊**
重病患者の生活を支えるため、2017年3月、無錫慈善総会(政府設立の無錫地域の基金)に献金しました。

» グローバル

よき企業市民として

国内外において、行政主催のイベントへの社員ボランティアの推奨・協賛などを通じて、よき企業市民として、地域社会への貢献を目指しています。また、地域コミュニティとのさまざまなコミュニケーションの場を設定し、地域との連携を図っています。



● 浜崎 純一

私はさまざまな活動を通じて職場の笑顔、家族の笑顔、近隣の子供たちの笑顔をつくり続けていきます。そしてその笑顔は私にとって活力の源です。



🇪🇸 Alexis Valverde

欧州リージョンの社内報に、スペイン社創立25周年を祝う素晴らしいパーティに関して記事を書きました。ヨーロッパ各地出身の同僚たちと楽しい時間を過ごしたパーティのことを皆さんに知ってほしかったからです。

第三者意見

シンクタンク・ソフィアバンク 代表
藤沢 久美氏

持続可能社会実現への本気度

まず、何をにおいても、非上場会社への移行を選択されたにもかかわらず、サステナビリティレポートの発行を決意なさったことに、敬意を表したい。さらに、詳細なweb版と概要を記した冊子版をご用意され、冊子版については、社員に配布されるとのこと、また、森谷社長のメッセージの、「従業員一人ひとりがいかに『CSRマインド』を持って活動できるかが鍵となります」という言葉に、同社の「持続可能な社会の実現に貢献します」というビジョン実現への本気度を感じます。

担い手としての一人ひとりの従業員の尊重

その本気度は、森谷社長の言葉にとどまらず、当該レポート内において、事業活動の隅々に至るまで、持続可能性に基づいた取り組みが行われていることが見て取れます。たとえば、国内外における生産現場での環境配慮やサプライチェーンにおけるCSR調達やCSRガイドラインなど、きめ細かな取り組みの様子を知ることができました。そして、何よりもこうした持続可能性に対する担い手である一人ひとりの従業員を大切にすとい

う経営の意識が、レポートからにじみ出ています。人権や労働慣行に対する取り組みはもちろんのこと、レポート後半のページ下に展開されている各国従業員の「MY CSR」は、一人ひとりの従業員が持続可能性に対する取り組みの担い手であることが読み手に伝わる素晴らしい工夫です。

ステークホルダーの声

さて、今後の課題をあえて提案させていただくならば、サプライチェーンをともに形成するお取引先などのステークホルダーの皆さまの声も是非聞かせていただくと、緻密なCSRへの取り組みに厚みを増すことができると思われます。また、非上場会社として、ファンド会社との関係やファンド会社の株主としての意見も反映いただくと、さらに安心して御社の未来に期待を持つことができると考えます。

加えて細かな点を指摘させていただくと、全体として、豊富な図解や優しさ溢れる色使いで表現されたレポートではあるのですが、御社の事業を理解している人を前提にされた記載が多いように感じました。御社のことをまったく知らない人でも興味を持ち、少しでも理解できるような

小見出しの工夫や解説の工夫をしていただけると、より多くの方に読んでいただけるのではないかと推察します。その意味では、新入社員の方や地域の方々にも、当レポートの作成に関わっていただくような取り組みがあってもいいのではないのでしょうか。

持続可能性の実現を事業の柱に据え、着実な取り組みが記載されるweb版も、国内外の多くの関係者に読んでいただく工夫をしていただき、従業員の皆さまが、社会に貢献していることに対する自信と誇りを持って、日々の事業に取り組んでいただくことを願います。

プロフィール

国内外の投資運用会社勤務を経て、日本初の投資信託評価会社を起業。同社を世界的格付け会社に売却後、シンクタンク・ソフィアバンク設立に参画。1,000社を超える経営者インタビューやダボス会議との連携を通じて、国内外の官民協働支援に取り組む。



第三者意見を受けて

カルソニックカンセイ株式会社 取締役副社長
柿沢 誠一

藤沢さまには、当社グループのCSR活動および報告について、貴重なご意見、ご指摘をいただき、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、2015年度をCSR元年として、事業を通じた社会への貢献を使命にCSR活動に取り組んでまいりました。この度、株主の異動という大きな変化がありましたが、従来以上に活動を拡充すべきとの意思決定をし、具体的施策を進めております。

ご指摘いただいたステークホルダーの声に関しては、より多くのステークホルダーの皆さまとの対話を促進し、エンゲージメントを深めていきたいと考えております。また、昨年度より当社の

報告書を初めてご覧になる方にもわかりやすい情報発信となるよう努めておりますが、さらに改善を進めてまいります。

今後も、社会とともに持続的に発展する企業グループを目指して、経営陣、従業員の一人ひとりがCSR活動に真摯に対峙し、より一層取り組みを強化していきます。



 Jenwit Nala-ong

私はホームレスなどの苦しんでいる人々を見かけるたびに、何かできないかと思っていました。多くはできませんが、読み終わった本を寄付するなど、自分にできるだけのことをしています。人と何かを分かち合い、人を助けることでとても幸せな気持ちになるのです。



 Corina Schiopu

2人の娘さんを持つシングルマザーで、財政困難から住まいを失いかけていた一人の女性作業員の同僚のために、昨年クリスマスに義援金活動を立ち上げました。

グローバルネットワーク



海外主要拠点

アメリカ

北米カルソニックカンセイ社

メキシコ

カルソニックカンセイ・メキシコ社

ブラジル

カルソニックカンセイ・ブラジル社

イギリス

カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社
カルソニックカンセイ・ユーケー社
カルソニックカンセイ・サンダーランド社

スペイン

カルソニックカンセイ・スペイン社

ロシア

カルソニックカンセイ・ロシア社

ルーマニア

カルソニックカンセイ・ルーマニア社

フランス

カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社 フランス事務所

ドイツ

カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社 ドイツ事務所

中国

カルソニックカンセイ(中国)社
カルソニックカンセイ(無錫)社
カルソニックカンセイ 中国エンジニアリングセンター社
カルソニックカンセイ(広州)社
カルソニックカンセイ(襄陽)社
カルソニックカンセイ(無錫)コンポーネッツ社
カルソニックカンセイ(広州)コンポーネッツ社
カルソニックカンセイ(広州)ツーリング社
カルソニックカンセイ(海門)社
カルソニックカンセイ(上海)社
シーケーエンジニアリング上海社

韓国

カルソニックカンセイ・コリア社

マレーシア

カルソニックカンセイ・マレーシア社

タイ

カルソニックカンセイ・タイランド社
サイアム・カルソニック社

インド

カルソニックカンセイ・マザーソン・オートプロダクツ社

国内主要拠点

国内事業所

研究開発センター・本社
実験研究センター
生産技術センター

事務所

宇都宮事務所
厚木事務所
浜松事務所
名古屋事務所
倉敷事務所
広島事務所

国内工場

群馬工場
吉見工場
見玉工場
追浜工場

国内グループ会社

株式会社 CKF
株式会社 CKK
東京ラヂエーター製造株式会社
株式会社 CKP
カルソニックカンセイ宇都宮株式会社
ケーエスエンジニアリング株式会社
シーケーエンジニアリング株式会社
カルソニックカンセイ山形株式会社
カルソニックカンセイ岩手株式会社
カルソニックカンセイ・ビジネスエキスパート株式会社
シーケー販売株式会社

会社概要

会社名称	カルソニックカンセイ株式会社
本社所在地	埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地
主要な製品	コックピットモジュール、フロントエンドモジュール、エキゾーストシステム、エアコンユニット、コンプレッサー、メーター、ラジエーター
グループ会社数	連結:34社*
従業員数	連結:22,424名*
主なお客さま	アウディ社、いすゞ自動車株式会社、GM社、GEELY社、スズキ株式会社、ダイハツ工業株式会社、ダイムラー社、日産自動車株式会社、日野自動車株式会社、フォルクスワーゲン社、株式会社SUBARU、プジョー社、本田技研工業株式会社、マツダ株式会社、三菱自動車工業株式会社、UDトラックス株式会社、ジャガー・ランドローバー社、ルノー社
資本金	16億円*

*2017年3月31日現在



編集方針

本レポートについて

カルソニックカンセイグループは、CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) に関する情報開示の一環として、また、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールのひとつとして、2014年より「サステナビリティレポート」の発行を開始し、当社グループの考え方やさまざまな取り組みを報告しています。

4回目の発行となる「サステナビリティレポート 2017」は、タイムリーに情報発信ができ、ステークホルダーの皆さまが必要な情報に、よりアクセスしやすくするためwebサイトを中心とした構成に見直しを図りました。webサイトは、以下URLよりご覧ください。

さらに、初めてご覧になる方にも当社グループのサステナビリティについて親しんでいただけるよう、報告内容をコンパクトにまとめたダイジェスト版(本冊子)を制作しました。できる限り情報をビジュアル化しています。

webサイトCSR情報ページ
www.calsonickansei.co.jp/csr



対象範囲

カルソニックカンセイ株式会社およびグループ会社

対象期間

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)を中心に掲載

発行時期

2017年6月(前回:2016年6月、次回:2018年6月予定)

参考としたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」(G4)
 環境省「環境報告ガイドライン 2012年度版」

環境・社会・経営に関する各種原則などへの賛同

国連「国際人権章典」、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」、「国連グローバルコンパクト」、「労働の基本原則及び権利に関するILO宣言」、「ISO26000(社会的責任に関する手引)」、(社)日本経済団体連合会「企業行動憲章」などが示す活動内容に賛同し、重要な経営指標として実現に向けた取り組みを行っています。

第三者保証・意見

第三者保証・検証は未実施
 CSR、ESG(環境、社会、ガバナンス)で評価の高い有識者による第三者意見をサステナビリティレポート 2017 ダイジェスト版、webサイトに掲載

本レポートへのご意見・ご感想をお待ちしております

〒331-8501 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地
 カルソニックカンセイ株式会社
 コーポレートプランニング本部 CSR/広報・IRグループ

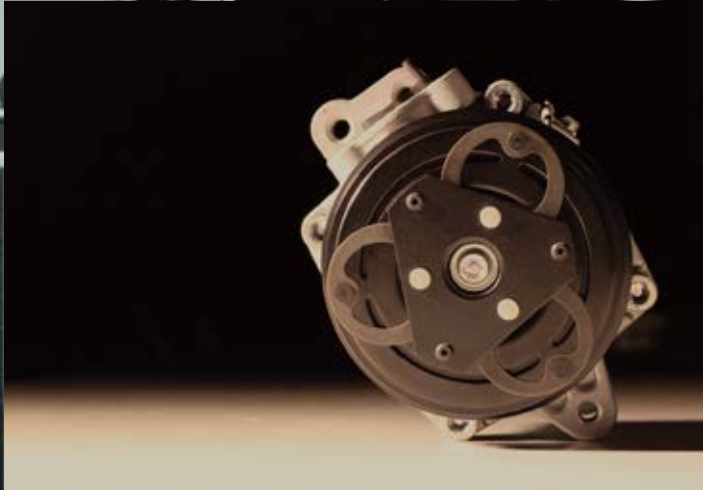
webご連絡フォーム

www.calsonickansei.co.jp/csr/opinion



ご注意事項

本レポートに記載しました見通しについては、業界を取り巻くさまざまな要因により実績が異なる結果となりうることをご承知おください。



カルソニックカンセイ株式会社

研究開発センター・本社

〒331-8501 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地
コーポレートプランニング本部 CSR/広報・IRグループ
www.calsonickansei.co.jp

